

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500520		
法人名	社会福祉法人ノテ福祉会		
事業所名	グループホーム「遊宴」真栄		
所在地	札幌市清田区真栄5条2丁目1番5号		
自己評価作成日	平成24年11月19日	評価結果市町村受理日	平成25年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者一人ひとりに個別的な対応を心掛けていること。ご利用者の希望にはできる限り、早期に対応をし希望に沿い支援する事で不安なく過ごされている。また、過介護にならないよう、ご本人の出来る事へ目を向け声掛けや見守りの中で出来る事を発揮していただいている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kajgokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=0190500520-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階		
訪問調査日	平成 24年 12月 13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに住宅が少ないなどの条件下では、地域との交流が難しい面もありますが、管理者並びに職員はあらゆる機会を捉えて地域の一員たらんと努力しています。組織替えの影響も落ち着きを見せしていますが、今後はホームの力で今以上に地域に貢献していくようとする計画がみられます。これは、町内会の研修会やキャラバンメイトを活用し、認知症の人への理解や支援の方法など広く伝えてゆこうとするもので成果が期待されます。また、運営推進会議ではマンネリを防ぎ内容の活性化を図るため、毎回ミニ研修会を合わせて開催しており出席者の間で好評のようです。「利用者の笑顔づくり」が我々介護職員の最大の務め・・・と話す職員の言葉が、このホームの目指す強いポリシーを感じます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定例会議、社内研修には、理念を確認し周知に努めている。ホーム内の目に付く所に掲示し、常に意識し支援に活かすようにしている。	運営法人の理念の他に当ホームとしての理念があり、職員は常に理念の意義を共有しながら日常のサービスに活かしています。今後はホーム理念の実践に向けて、より一層の質の向上に取り組むこととしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域、町内会の行事への参加や散歩時のご挨拶は励行している。町内清掃、町内会企画の研修会にも参加させていただいている。	町内の散歩により、住民の方との挨拶や花壇の清掃などの地域交流が徐々に増えてきています。今年から町内会の理解で回覧板にも認知症に関わる相談やキャラバンメイトの普及が計画されるなど地域との交流は拡充しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年、開設10周年を迎え「遊宴祭り」を開催した。毎年の行事として定着させ、地域に根ざした活動へ繋げて行きたい。また、ボランティアの受入れやボランティアスクールの参加募集など地域に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能「ごきげん」真栄と合同で開催している。ご家族、地域の方に各事業所の概要説明を行い周知していただいている。意見、交流、報告を行っている。議事録や定例会議で職員へ周知しサービス向上に活かしている。	今年は今までに3回開催しており、会議に併せて「ミニ講座」を開催するなど、内容の充実が図られています。なお、外部評価で得られたサービスの改善に向けた協議などの対応が求められています。	家族の出席も増加の傾向にあり、今後益々家族の参加に加え地域住民の参加が期待されます。今後は自己評価並びに外部評価の情報を提供し、介護サービスの質の向上にむけた協議の取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や清田区のグループホーム管理者連絡会等で市町村担当者と実情や取組みを伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者には運営推進会議出席の折にホーム運営のアドバイスを頂いています。今後は、外部評価で得られた課題を「目標達成計画書」に提示しながら市の担当者と連携して対応することとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない」という意識を徹底している。安全面を工夫し身体拘束をしないケアを継続していく。	マニュアルの内容を内部研修や全体会議の中で取り上げて、意識の啓発に取り組んでいます。特に車椅子を利用している場合は、出来るだけ車椅子依存を避けるよう工夫しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はもちろん言葉による暴力も行ってはならない事。社内外の研修で学び常に虐待がないよう意識し勤めている。職員間の風とをしを良くしもっと感じたことを話せる関係作りを目指す。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が対応している。社内研修も行っているが全員の周知にはいたっていない。制度について学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族、ご利用者への説明等は、管理者が行っている。定例会議等で契約書、重要事項の内容について職員に説明は行っているが、実際に携わっていない為理解に乏しくなる。定期的に伝える必要がある。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で受けた意見、要望は、議事録を通し地域担当者や同法人の他の事業所へ意見として発信して学びあっている。	家族の訪問時や毎年行うアンケート調査により、家族の意見や要望を把握する努力が見られますが、具体的な成果には至っていません。また、意見箱の利用についても家族への啓発が不足しており家族とのコミュニケーションの重要性を感じます。	運営推進会議では家族の出席が増えており、良い傾向にあります。今後は会議の議事録を全家族に送付し、意見及び要望を頂き、検討することによりホームの運営とサービスの質の向上に反映されるような取り組みを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や空き時間等で意見、提案を出せる場や聞く機会を設け反映させている。現場の実行、実施のスピードが遅い事が課題である。	各ユニットで行われる定例会議の中で、職員からの意見や提案、要望を聞き出す機会を作っています。ユニットの中で解決できるもの、また、運営法人に伝えるものなど、風通しの良い雰囲気作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の状況、環境に配慮し永く働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数の長い職員も採用時研修、フォローアップ等研修に参加するよう積極的に取り入れている。研修の機会は確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム交流会や研修会等に参加し、交流を通じネットワーク作りをしている。機会を確保しているがシフトの関係で参加が出来ない事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添いながらご本人のペースに合わせて支援ができるよう、傾聴し安心して生活ができる様に信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来訪された際に要望や不安に思うことを傾聴し話しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活暦やご本人のニーズをしっかりとアセスメントし、必要としている支援が提供できる様努めている。職員間で情報の共有を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係の構築に努め、ご本人のできることが活かせて、お互いが安心して暮らせるような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の今までの絆を大切に日々の様子や些細な変化もお伝えし、ご本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの理容室に出かけたり、年賀状を出されたり、知人の来訪の際にはお話を伺うなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	家族と共に馴染みの関係の維持に努めています。馴染みの理容院や喫茶店へ出かけたり、毎月ボランティアのコーヒーをおいしく頂いています。年賀状作りも家族や職員が協力し合いながら継続しています。墓参りなどは家族が対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション、お茶の時間等では職員は橋渡しをして会話が楽しめる様支援している。また、孤独を感じないよう「ちゃんとあなたを見ていますよ」と意思表示し声掛けやアイコンタクトを取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個人情報保護しつつ何時でも相談出来る様努めている。ボランティアとして月に1回から2回コーヒーを入れに来訪して下さるご家族がいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集ばかりではなく、日頃の会話の中からご本人の希望や意向の把握に努め、支援できるような努めている。	家族からの情報は大切にしていますが、ホームの暮らしの中で、会話やそぶりなどから利用者の意向や思いの把握に努めています。どうしても難しいときには本人本位に検討することになっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス前の情報収集はもちろんのこと、これからどう暮らしていきたいか等、自己決定のもと暮らしやすい環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や挨拶時の表情や様態の観察に努め主治医、訪問看護師、職員間で心身の状態について情報の共有に努めている。また、出来る事はして頂けるようご本人のペースに合わせ支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となりご家族、職員、他職種の関係者と話し合い、ご本人のニーズに沿った計画作成に取り組んでいる。	日々のモニタリングから、介護計画の見直しの必要性を捉えながらカンファレンスが開かれています。なお、日々のケース記録と介護計画の連動性が必要と思われれます。また、計画に対する家族への説明や話し合いが必要と思われれます。	利用者の暮らしの記録は詳細に記録されていますが、介護計画を反映した記録の工夫が必要と思慮し、その取り組みを期待します。また、家族への説明に加えて、話し合いにより家族の意見や要望がより多く反映されるような取り組みが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容は個別の記録へ記入し情報共有に努めている。また、見直しについてはカンファレンス時に職員間で情報を共有しケアに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況にあった支援やサービスが出来る様、細かなことも伝えあって取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時の環境の把握に努めご本人の心身の状況にあった支援で楽しみを持って頂けるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を中心に24時間適切な医療を受けられるよう努めている。	従来のかかりつけ医への受診は家族と共に支援しています。ホームの協力医は訪問診療を始め訪問看護師との連携の下に利用者の健康維持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護師により医療連携連絡表で、個々の状態の把握に努め情報共有に努めている。適切な指示を受け受診や看護を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、医師、看護師、ご家族と安心して治療できるよう情報交換や関係作りに努めている。また、日頃より心身の状態の把握に努め重度化しないよう主治医、訪問看護師、病院関係者と関係作りに努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に向けた指針について説明し同意を得るようにしている。日々の心身の状況を報告し今後の意向について、主治医と相談しながら支援に取り組んでいる。	本人並びに家族からは重度化や終末期に向けた対応の指針を説明して同意を得ています。これまでのホームでの看取りは3例を体験しており、ターミナルケアへの対応も職員間で研修しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し緊急時の対応に努めている。応急手当等初期対応の訓練は外部研修に参加を促すなど全員が実践力を身につける必要がある。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練を実施し全員が参加出来るよう取り組んでいる。	消防署の協力の下、年3回の避難訓練を実施しています。いくつかの問題点が明らかとなっており、これらの課題解決が求められています。	火災に関わらず、あらゆる災害を想定した日常の備えが必要です。日常の暮らしの中で常に気配りのチェック、災害に対応する備蓄の充実、また、近隣の住民への要請など強い決意のもと取り組まれるよう期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳とプライバシーに配慮し丁寧な声かけを心がけている。	利用者の全てが、人生の大先輩であることを自覚して、言葉掛けや行動に細心の気配りをしています。また、トイレへの誘導や入浴に際してもプライバシーを損なわないよう支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で気づきを活かし自己決定出来るよう、思いに沿った支援と伝えやすい環境作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムにメリハリを伝える事は大切だが、そのなかで職員の都合ではなくご本人のペースに合わせニーズに沿った支援が出来る様努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容や訪問理美容の活用などご本人に合ったおしゃれが楽しめる様支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食の利用ではあるが、週3日リクエストを取り入れたり好きな物を召し上がっていただけるようメニューの提供をしている。下膳や食器拭き等出来る事をして頂きながら食事を楽しまれている。	献立は配食サービス会社で作成され、運営法人の栄養士の監修を得ていますが、週に3回は利用者の希望を聞きながら献立を変えて提供しています。利用者も食器洗いや配膳、下膳など出来る範囲で共に行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の記録をつけ、一人ひとりの情報を把握している。誤嚥やむせ込み、食べ方など注意を払いその方に適した食事の形態や声掛けを行い、落ち着いて召し上がっていただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けと介助など状況に応じて支援している。毎週訪問歯科の往診があり都度必要な方は、対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方にあった排泄の支援に努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら支援しており、状況を見ながらさりげなく誘導してトイレでの自力排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のコントロールがなかなかつかない事もあるが、訪問看護師、主治医と相談して個々に応じて支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は大まかに決めていますが、その日の体調や気分に合わせて臨機応変に調整を図り、希望やタイミングに合わせて気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。	週に2回を目途として入浴を楽しんでいただいています。入浴を拒む利用者や状態がすぐれない場合は日を改めたり、シャワー浴、清拭などと合わせて支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣を大切に気持ちよく眠れるよう支援している。また、自力で体位交換ができない方に対しても安楽な体位を枕やクッションで調整し床ずれの予防に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬について周知出来る様にしている。症状の変化や処方の変更は、記録に残し確認している。誤薬がないよう個人のカップに服薬をセットし名前確認後、ご本人が飲み込むのを確認して適格に服薬されるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味など一人ひとりに合った出来る事や楽しみを見つけ、コミュニケーションをとり楽しく過ごせる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や体調を考慮し、四季にあわせた行事への参加やご家族、ボランティアの協力を得て外出の支援をしている。	好天時には、出来るだけ散歩を勧めて、閉じこもりの防止に努めています。利用者一人ひとりの希望に応じ支援しています。また、行事として遠方へのドライブや花見、紅葉の鑑賞、時には昼食の弁当持参やバイキングで楽しまれることもあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方には、ご家族のご理解と了解を得て財布の携帯とご自分の買い物時のお支払いをしていただいている。お金を持っていないと落ち着かれない方もいるのでご家族、職員で相談し少額の現金を所持していただいている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室にテレ、ビ電話を引かれたり、希望される方にはホーム内にある公衆電話で電話されるなどご本人の希望に応じて対応している。年賀状を出される方もいてご家族が協力している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面や玄関には季節のものを取り入れて指揮を感じていただく工夫をしている。	建物の構造により各ユニットの玄関は、若干複雑ですが、居室、食堂などは家庭的な雰囲気です利用者同士の会話と笑顔が覗えます。居間に面した大きなガラス越しに、桜の木々がそびえて季節の移り変わりを見ることができます。浴室も広く介助しやすい浴槽の工夫もみることができます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	タバコを楽しまれる方がいるので喫煙場所を設けて、ご本人が座りたい場所や居たい場所を過ごせる様配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの家具やご家族の写真など以前の生活環境に近い居室づくりが出来れば、ご家族と相談し居心地の良い環境作りに努めている。また、立位歩行が不安定な方がいるのでリスク回避出来る様椅子を置くなど転倒予防に努めている。	各居室は、利用者や家族の相談により、利用者にとって違和感のないレイアウトで、安心の配慮が覗えます。使い慣れた家具、仏壇、鏡台、テレビなどが持ち込まれ、整然とした居心地の良い居室となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩けるがふらつくなど立位歩行が不安定な方がいるのでリスクが回避出来る様、通路やコーナーの隅に椅子を置くなど休める場所や、掴まる場所を設置し転倒防止の工夫をしている。			